令和6年度第1回長崎原爆資料館運営審議会議事録

【日時】　令和6年5月29日（水曜日）10時30分～12時00分
【場所】　長崎市消防局5階講堂
【議題】　１　報告事項
（１）原爆資料館の運営状況について
（２）展示更新にかかる令和6年度の取組内容について
２　協議事項　　市民参加ワークショップの開催について
【審議結果】
１報告事項
（１）原爆資料館の運営状況について
・事務局より説明
・質疑内容

委員
外国人入館者数がどれくらいあったのか教えてください。
事務局
外国人の入館者数について正式に把握しているわけではないのですが、外国語のリーフレットの配布状況を見ますと昨年度は約 10 万人に配布しています。
委員
これまでの傾向としては、増えているのでしょうか。減っているのでしょうか。
事務局
コロナ禍で外国人の入館者数はなかなか見込めなかったのですが、クルーズ船が再開しまして最近は増加傾向にあります。ただ、外国人の入館者数について今までの資料を見ますと、一番多い時が平成 28 年に約 14 万人という数字がございますので、そこまでには至っていない状況にあります。
委員
先ほども外国人の話がございました。この結果を見ると団体以外に修学旅行が一番多いという話がございます。令和元年と比べて個人客がかなり令和 5 年度は増えております。先ほど外国人の話もありましたので、この個人のほうをいわゆる今後のターゲットというところが出てまいりますので、ここをどのような分析をされているのかお答えいただけますか。
事務局
先ほど令和 4 年度に 2 割増加をしたという話をしました。令和 4 年度もその前のコロナ禍から大分回復をしてきたところなのですが、その中でも修学旅行の戻りが早く、団体で来られる方が増加傾向にございました。ただ令和 5 年度につきましては、委員の方からご指摘

がありましたとおり、令和 4 年度に比べて増加となっています。国内で移動が制限されていた時と比べて個人で長崎に来ていただく方も増えてきている状況にあると考えています。ただ、この中でどちらの地域から来られているのか、そういった分析についてまだ至っておりませんので、そこの部分は今後検討していきたいと考えているところです。

委員

令和元年度と比べて令和 5 年度を見た時に個人客がかなり増えていることと、先ほど修学旅行生については、令和 4 年度で戻っているような形でしょうけども、ここを非常に分析していく必要がある。いわゆる一番の起点になった令和元年度なので、令和元年度に比べて 5 年度がどうだったのか、これが一番ターゲットになってくると思っております。その意味で一番集客アップにつながっていくので、そこを強く分析していく必要があるのではないかと。いい資料が出てきているので、特に進めるべきだと思いますが、いかがですか。

事務局

ご指摘ごもっともと思っておりますので、そこの部分を分析できないか、検討していきたいと考えております。

委員

表の読み方について質問です。3 頁のグラフは無料入館、団体、個人というような区分になっていますが、団体という定義は入館料という話に関連しての団体だと思うのですが、例えば、海外のクルーズ船のツアーで大勢の方が来館される場合は団体に含まれるのでしょうか。それとも個人なのでしょうか。つまり団体というのは、修学旅行がおそらく団体にカウントされると思うのですが、それ以外の団体の定義が少し曖昧なので、先ほどのご質問に関わると思うのですが、いったい誰が増えているのか、というところをもう少しきちんと認識するといいかなと思っております。

事務局

先ほど委員からお話がありましたとおり、個人と団体の違いというのが入館料の違いになっております。ですので、クルーズ船で来られた方も団体料金を適用されて入館した場合は団体でカウントをしている状況にあります。重ねてになりますけれども、団体と個人の区別というのが、入館の際に団体料金で入られるのか、それとも個人料金で入られるのかで示しております。

委員

実際に海外のツアーのパックの人数、大小あると思うのですが、団体で来る時が多いのでしょうか、それとも個人で来ているのでしょうか。

事務局

個々の事情まで詳細に把握していませんが、入館される際にお見かけするのは、まとまって来られる方です。一方で、自分たちで街を散策する際に数人で来られる方も見かけますので、そこは各クルーズ船のなかで提示された原爆資料館に行かれるツアーを利用して来られた場合は団体になるのかなと。長崎の街を自由に散策するなかで来られた場合は個人の

区分になると思われます。的確な答えではないのですけれど、こういった状況になっています。

会長

団体とは 15 人揃えば団体で予約もいらないんですね。今言われたみたいに電車や徒歩、バスで来る人たちは個人だと思いますが、外国人枠というのがないんですね。外国人専用のチケットがあるわけでもない、外国人の団体・個人の区分があるわけではない。資料館をつくった時は外国人の入館者がここまで増えると想定していなかったのではないかと思います。ただ、外国人の入館者数が多い状況なので、外国人対応についてはいろいろやることがありそうな気がします。

副会長

長崎歴史文化博物館を紹介させていただきますと、外国人のお客さんは個人と団体の割合が半々、4 月の段階で言いますと個人が 450 人くらい、団体が 450 くらいで大体半々です。それで外国人は 39 か国から、4 月に来ています。39 か国の調べ方は、受付で差し支えなければパスポートの掲示を求めたり、どこの国から来られたかを聞くようにしています。

私が館長に着任した頃、職員に対して外国人の割合を把握するように聞いた時に、そのようなことは個人情報だからできませんと言われましたが、これは分析する必要があって、何のために分析するかというと、ターゲット層を今、歴文でいうとアメリカとオランダが圧倒的に多いのですけれども、次にフランス、ドイツが多いです。フランス、ドイツはおそらく個人で文化的なところに興味がある人が沢山いますが、それによって情報提供のパンフレットなりテキストなりウェブサイトなりのターゲット層に、どのようにして情報提供をするのか戦略を考えなければいけないので、必要になります。

韓国の方は、見ていますとほとんど英語を話すので、高いお金をかけて韓国語に翻訳するのですが、韓国の方は英語で理解できます。それに対して、中国の大陸の方は少ないですね。香港、台湾は漢字を見たらわかる人たちなので心配する必要はありませんが、フランスやドイツに対しては対策が必要と考えています。

原爆資料館も今後、委員がおっしゃるように、国籍調査のガイドラインなりマニュアルを整備して、被爆 100 周年に向けて 20 年間分析すると相当な蓄積になると思いますし、それが次世代継承になるのではないかと思います。

（２）展示更新にかかる令和6年度の取組内容について

委員

確認のため教えてほしいのですが、テーマで「未来志向の展示、最後に希望が持てるような展示」とあります。これはどういうイメージをお持ちなのか、基本設計にも関わってきますので、教えていただけますか。

事務局

「未来志向の展示、最後に希望が持てるような展示」というところなのですが、皆さんに

議論いただいた基本計画は今後、長崎市の学芸員と乃村工藝社さんと具体化していく作業になります。それぞれのテーマごとにどのような展示をしたらよいのかというところまで、この審議会の方でご意見をいただいて提出させていただいておりますので、それを具体化する作業は今後進めていきます。

この「未来志向の展示、最後に希望が持てるような展示」というところは学芸員としても具体的なイメージを持ちづらいテーマとなっていますが、暗い気持ちで資料館を出ずに明るい気持ちで出られるような資料館にしてほしいといったご意見もいただいておりますので、利用者目線でそういった気持ちになるにはどういったものが必要か、アイデアをいただきたいというところで、今回このテーマを設定させていただきました。

委員

私も昨年度から委員として審議会に出席しまして、議論していくなかで、今おっしゃったとおり、出ていく時に希望を持てるようなということで、広島の資料館にあるような、資料館に過去に訪れたリーダーの発言を最後に見られるか、その人たちが何をそこに求めていたのか、というようなものを子どもたちが見られるような、そういうものがあればいいのではないか、というような話を昨年させていただきました。

そういったものを踏まえて、まさに出てくる時にそんな希望が持てるような、未来志向に関わってくるようなところをイメージしていただければと思います。もう一つだけ、小学校については、ピースナビや被爆校舎を持ちながら被爆教育も盛んな城山小学校が、ちょうど先生も委員になられているので、それが対象になったというのは、本当に、長崎原爆遺跡がある被爆校がなったというのは非常にいいことだと思います。子どもたちもそこに関わっている被爆校でございますので、是非これはそれを踏まえて進めていただければと思いますので、よろしくお願いします。

委員

未来志向のテーマは、昨年度の会議では、市民運動や長崎市がやっているような ICAN を最後に持ってきて、希望をもたせる意味だと思いますが、その関連ですけれども、自分事として捉える、行動することにつながる資料館ということで、なぜ核兵器が無くならないのかというところ、なぜがあると、自分事として考えることにつながると思います。そこが無くて未来志向とか希望をもたせるとなると、それは誤った未来志向、誤った希望を持たせることになり逆に今後につながらないと思うので、なぜそうなのかということが必要だと思います。

広島平和記念資料館では、なぜといったところの一つが、国際政治だったり安全保障の部分だったりを展示してはどうかとの意見もあったということです。広島には無いので、画期的かと思います。基本計画にあるその部分というのは、小委員会での発言をベースにつくられているんですけれども、これは「なぜ」というところのつながりがなくて、そこは今後検討していきたいと思っています。現実と未来を両方合わせ持った資料館になるといいのかなと思います。

事務局

今度のワークショップは、策定した基本計画に基づいて開催しますので、基本計画の趣旨は説明したうえで開催していきたいと考えています。

委員

先生にお聞きしたいと思っていましたが、小学生というのは高学年と低学年で年齢の幅が大きいですよね。ワークショップの対象は何年生を想定しているのでしょうか。

事務局

今先生にご相談させていただいているなかでは、5年生が社会科見学で一学期に資料館を訪問されると聞いていまして、できればそことリンクさせた形で実施をしてはどうかとご提案をいただいております。現在は5年生を対象に実施したいと考えております。一学年が約 90 人で一クラス約 30 人ですけれども、できれば学年の全員にそういったワークショップの体験をしてもらいたいとの先生のご要望もありますので、そこの部分はコーディネーターの委員ともご相談させていただきながら進めていきたいと思います。

委員

ワークショップに臨む前に、そういう前段階みたいなものが重要になってくると思います。発表する力を発揮してもらえるようにぜひお願いしたいと思います。

事務局

そこは城山小学校の先生ともご相談させていただきながら進めていきたいと考えております。

委員

小学 5 年生と決まっていることなら仕方ないですが、基本的に私は中学生がいいかなと思います。小学生はトラウマになる可能性があるので慎重にすべきだと思います。仮に小学生でワークショップをするのであれば、そのあたりも意見を聞いた方がよいのかもしれません。大人と子どもが同じルートになっていることを懸念していて、自分の学生でも小学生の時に見たものがトラウマになって逆に拒否感を生んだという話も聞いているのでその辺の意見も聞いてほしいと思います。

事務局

先生からもそういったご意見もいただいておりまして、実際、城山小学校のほうでもそういった生徒さんはいらっしゃるというのは事実だそうです。その辺も配慮しながらになるかとは思いますけれども、どうしても長崎市内でいきますと 5 年生が社会科見学に来られるとのことですので、5年生がわかるような展示についてご意見を聞きながら展示更新を進めていきたいと考えておりまして、今回小学生を対象にさせていただければと思います。

委員

依頼を検討とありますが、決まったように話が進んでいるのですが、私は特定の学校ではなく、長崎市内の小学校すべてに公募をかけてほしいと思います。今のお話にもありましたように、長崎の小学校ではどこの学校も平和教育に取り組んでいます。それから原爆資料館

の見学もスケジュールに組み込まれていますので、是非、公募をしてほしいと思います。そうすると爆心地から近いところと離れたところで違う意見も出るのではないかと思います。

中学生以上は一般枠でという話があったのですが、中学生もそういう形でワークショップを組んでほしいと思います。高校生は一般枠に入っても対応していけると思うのですが、各学校で独自に平和教育をやっているんですよ。過去に私、小学校の教員をやっていたんですけれども市内の小中学校の子どもたちを集めて「子どもの平和の集い」をやっていたことがあるんですね。色んな学校の子どもたちが意見を出し合ってやっていくという経験をしていますので、知らない者同士では話ができない、意見を出しにくいということはないのではないかと思います。それはファシリテーターによりけりだとは思いますが、このような意見を申し上げました。中学生もそのような話をする場を作ってほしいという要望です。

事務局

今ご意見があったとおり、小学生の公募も考えたところではあります。ただ、先ほどお話をしましたとおり、知らない子が集まって話をするよりも通常クラスで一緒に友達と話したほうが具体的な意見がより出やすいのではないかというところで、今回は特定の小学校で開催させていただきたいと考えております。中学生の意見も重要かと思いますが、中学生であれば自分の意見も話せると思うので一般枠で対象とさせていただきたいと考えております。

委員

修学旅行生というのは、何も知らない子どもたち、九州地方ではありますけれども、ほとんどの県の子どもたちはあまり知識がない状況にあります。それに比べて長崎の子どもたちは原爆について学んでいるので、とてもよくわかっている子たちから出せる意見というのは、修学旅行生に対してはフォローが足りないのかなと思います。

できれば、修学旅行で来た子どもたちにも簡単なアンケートでいいので、オープンな意見を吸い上げるという意味で、先ほど委員さんが言われたけれども、他の学校もしたほうがいいんじゃないかという意見と同じで、修学旅行で来た子どもたちがどんなところがわかって、どんなところがわからないのかというのをアンケートでもいいので、集約していただけたらなと思います。

色んな意見が出やすいということで城山小学校というのも本当にそうだなと思いますが、私たちは5年生によく聞かせていただいて、何がわからないかと聞くと「あくる日」という言葉がわからないと言われたことがあるんですよ。「次の日」のことですけれども。当然のことだと思って言っている言葉がわからないということに気づきました。それで修学旅行生のためにちょっとした簡単なアンケートをしていただきたいなと思います。

事務局

資料の10頁にアンケートの実施結果を掲載しております。このなかに小学生のアンケートの回答者数は 1 名のみということで、小学生も修学旅行生も含めて意見を拾えていないなという印象があります。先ほど委員が言われたように聞き方は工夫したうえで、1名とい

うのは少ないのでそういったアンケートは是非実施をしていきたいと思います。

委員

委員の意見もお伺いして、小学生に意見を聞くというのは理解しました。ワークショップは中学生も対象にしてやったほうがいいと思っています。先ほど説明のなかで中学生は一般枠で募集しますという話がありましたが、果たして手があがるのか、そこも私は疑問がありまして、中学生と高校生はどのように公募するのか、一般と同じように集めるのか、教育委員会と連携してやっていくのか、どのような方法で集めるのかお考えをお聞かせください。

事務局

中学生、高校生の対象というところでございますが、今のところ一般と同じような形で募集をかけようと考えていますが、通常の募集では手があがりにくいというのはご指摘のとおりと思いますので、そこの部分は検討をしていきたいと考えております。

委員

一般のなかでやるのであれば、是非検討してください。本来は中学生を対象にワークショップをした方がいいと私は思っているのですが。一般でやるのであれば、必ず中学生、高校生を含めて、応募の方法を検討していただきたいと、私は要望させていただきます。

委員

今のところ城山小学校とのことなのですが、複数にするのか、やっぱり公募にしてもらったほうがいいと思います。アンケートのなかで中学生は 28 名、高校生は 3 名ですね。中学生が一番理解できやすい年齢なので、そういった点で中学生に対してもやってほしいなと。高校生も大人の中に入れてということだったんですけれども、長崎では高校生が色々な平和活動をされている。そういった中で高校生についても公募にして意見をもらって活用していくことが大事じゃないかなと思います。

委員

公募だと知らない者同士で尻込みするのだという懸案もあるのですが、学校単位の公募にすれば参加する件数も増えるのではないかと思います。6 月、7 月で平和学習するような小中学校も多いので、そういった授業を活用して。さすがに 8 月 9 日の慰霊の日にワークショップをするのは難しいと思うので。あと、修学旅行生にアンケートを取るべきだと思います。パンフレットにアンケートを挟んで来場者に配布すれば回答率が上がるのではないかと思います。最後にワークショップの内容についてなんですけれども、内容はこれから決められるかもしれませんが、実際にどのような質問を投げかけるのか、具体的なところについて内容を審議する必要があるのではないかと思います。この会議の時点で内容の審議をしないといけないと思うので、急いだほうがいいかなと思います。

委員

三点あります。まず一つは、大前提として原爆資料館が何のためにあって、何を行うことが重要なのか、原点に常に立ち戻ることが大事そうだなと思って、この間の議論を伺ってお

りました。例えば、暗い気持ちになってしまうというアンケートがあって、どうやったら明るい気持ちで帰れそうかというのがあって、すごく大事ではある一方で、原爆資料館にいってあの惨状を目の当たりにして明るい気持ちで帰るというのも僕は間違っている気がして、委員がおっしゃったとおり、被爆当時の実相を知って、どういう風に頑張ってきた人たちがいるのか、変えようとしてきた人たちがいるのか、それが実を結ぶことがあったのだ、というようなその関連を知ることはすごく大事だとは思うのですが、その一方で、一番大事なのは被爆の実相を目の当たりにして、核兵器を使ったら、こんな風に人が死んでいくのか、こんな風に人生を送らなきゃいけないのかという、そこにモヤモヤした気持ちで帰ることが一番大事だと思うので、そこからブレるような最後になってしまうとちょっと違うんじゃないかなと思ったというのが感想です。

もう一つが、委員がおっしゃったとおり、長崎市の皆さんが主催すると大変になるので、フォーマットを作って皆の意見で原爆資料館をアップデートしようという企画にして、フォーマットをやってくれる人たちいませんか、アンケートを私たちに送ってください、それを今年の夏までに募集しますという形にしてしまえば、何校も協力してくれるのではないかと思いました。

最後ですけれども、委員がおっしゃったとおり、私も学生で来られて見たときに、今日の一番のところで一個、圧倒的に来ているのが修学旅行生であるにも関わらず、城山小学校という下手すれば日本で一番知識のある人たちから意見を吸い上げるというのは、一番の反省というか教訓とはなんだったんだろうか、という風に正直思ってしまいました。もちろん城山のプロフェッショナルの方たちに聞くというのは大事だと思うんですけれど、知識がゼロの子たちに聞くのも大事だと思います。

ただ、修学旅行生にワークショップに参加してもらうのはすごく大変だと思うので、アンケートがいいという委員の意見に賛成です。アンケートを取るときには生徒だけじゃなくて先生と旅行代理店の方々も対象にしたほうがいいんじゃないかなと思います。やっぱり企画するのは旅行代理店の方々だし、行き先を決めるのは先生たちなので、県外の先生たちがどのように資料館を見ているのかというのは非常に重要な意見じゃないかなと思ったので、もちろん子どもたちもそうですけど、子どもたちと接する人たちから意見を聞くのは極めて重要だと思います。

委員

関連でお話をさせていただきます。城山小学校はピースナビというのが小学校 6 年生の時にあります。小学校 6 年生の子どもたちが修学旅行で訪れた各小学生や中学生を案内して、被爆の実相についてお話をしています。小学校 3 年生から色々な学びを行いながら、6 年生にはピースナビのリーダーになっていくというところを勉強していく、色々なお話をそこで聞いていくというのがございますので、その意味では非常に勉強しているところではないかと、または色々な人の声を聞いているのではないかと思います。

ただ、中学校の方について先ほどのデータからいくと中学校は修学旅行先で非常に伸び

ている、その意味でいくと、中学校の団体についてもこれを加味して色んな考え方があるべきだと思います。なのでこれについても今後検討していただきたいと思います。あとは、他の小学校がどうなのかというとアンケート調査で 1 名しかいなかったということがあったにしろ、やはりこれはこれで他の意見を吸い上げるような形は何かないかと取るべきじゃないかと思いますけど、事務局の意見をお伺いしたいです。

事務局

委員さんからアンケートについて様々なご提案やご意見をいただいたところでございます。今のところ、小学生を対象にということで先ほどご説明させていただきましたが、中学校を対象としたアンケートであったりとか、先ほどもご意見ありました先生や旅行代理店の方とかそういったところを含めて対象とするかどうか検討させていただいて、アンケートをするならば工夫が必要だと思いますので、その辺については検討させていただきたいと思います。

委員

展示室の入館者の状況が大体 68 万人なのに対して、パブリックコメントやアンケートが全然来ていない、どういうアンケートの取り方でどういうパブリックコメントの書き方でしているのかわからないのですが、小中高は修学旅行で来ることがわかっている時点で、人数もわかっていると思うんですね。であれば、アンケートやパブリックコメントの資料を人数分準備して、バスの中で意見を書いてもらうことができると思うんですね。朝から先生たちが集めたりだとか、旅行代理店の人に預けてもらって原爆資料館に送ってもらうだとかきっとできると思います。そうすればもうちょっとアンケートやパブリックコメントが集まると思います。そういう方向というのは考えていないのでしょうか。

事務局

アンケートはパンフレットに QR コードを挟んでスマホで回答していただく形式にしています。そのため、おそらく小学生の意見が拾えていないことがありますので、そこは紙ベースにして学校にお願いするような手法があると思います。そこは工夫をしていきたいと思います。

委員

おそらく QR コードというのは、皆が皆、携帯を持っていると思わないので、紙ベースにしたほうが意見を聞き取りやすいと思います。もう一つ、ワークショップの開催についてなんですけど、全学校でワークショップをするのは難しいと思うので、それこそ朝の学習で十分くらいあると思うんですね。その時に平和の日に向けてアンケートを取ったりだとかできると思うので、全学校に向けて紙媒体のデータを送るだとか、そういう取り組みをやったらどうかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

事務局

そこについてもアイデアをいただきましたので、今後皆さんのご意見を含めて検討していきたいと思います。

委員

今回ワークショップの関連で、私の大学の授業を一つの枠として活用することをアイデアの中に盛り込んでいただきました。今のところ全く質問が出てこないので、あまり皆さん大学生や留学生のほうにはご質問がないのかなと思いつつ聞いていたのですが、ワークショップの議論の前提として一つ頭に入れておいていただきたいと思ったのは、今回C・Dコーナー及びいこいの広場といった、かなり意見の取りにくいところに関してのワークショップであることが一つ大きなポイントであると思います。

これまで行なわれてきたアンケートの原文を私も皆さんもご覧になってはいないと思うので、アンケートを前提の一つとして議論をなさっている、そこは私も事前に調べておけば良かったのですが、おそらくですけど、先ほど委員のお話を聞きながら感じていたのは、一般的に見た後に意見を聞いたら、多くの人が最初のAコーナー、Bコーナーの印象があまりにも強すぎてほとんどがCコーナー、Dコーナーを通りすぎてしまうと思うんですね。なので、今回もそうですし、そもそも今回のパブリックコメントもワークショップの目的もあくまでCコーナー、Dコーナーに焦点を当てて、今まで出てこなかった意見をなんとか引き出すといったところに、どういった工夫ができるかといったところが一つ大きな前提であると思います。

キーワードである「未来志向の展示、最後に希望が持てる展示」といった時に、より具体的に、例えば悲惨な原爆の実相を見た後に、いったいCコーナー、Dコーナーに何があれば、希望というのが単なる楽観的な志向、「どうにかなる」だったり、「大丈夫だ」ではなくて本当に具体的に先ほど委員がおっしゃったように、どうしていけば現状を私たちは変えていけるのかというような、自分たちが何か変えるヒントをもらいたいと思うような、そういう原爆資料館にするために何ができるのか、というところをかなりピンポイントで引き出すようなワークショップを展開することが今回のポイントだと思います。

その意味で私は最初、城山小学校の話を聞いた時に全く同じ意見を持ちました。求めたい意見である全く前提知識のない子どもたちに意見を聞きたいというのはそのとおりなのですが、今回は一歩踏み込んで高度な内容でCコーナー、Dコーナーのことを考えてもらうとすれば、城山小学校が適切かもしれないと思っております。

そのため、今後アンケートをしていくにしても、審議会の目的に沿ったアンケートをしていかないと、これまでのものを広げていくような話ではないというところもあると思いますので、議論の前提としてワークショップのあり方を検討されていますので、少しCコーナー、Dコーナーを良くするためのワークショップという難題に取り組むのだということを前提でご議論いただければと思います。

委員

長崎では、色々なNGOが活動している。また、アジアの平和教育に対して補助金を出している人たちもいるし、アジアの人々と活動している団体もあるわけです。今の資料館で外国人が見たときに本当に納得して帰っていってもらえているのかどうか、その点でやはり外

国人と交流している人たちの意見も重要ではないかと私は思います。

委員

関連して、C コーナー、D コーナーが対象だということで高度な内容とするとなおさら小学生、城山小学校の小学生でも難しいのではないかという気がするので、中学生がいいかなと思うんですけど。

事務局

今回、小学生を対象にしたのは、昨日も展示室で C コーナー、D コーナーに小学生の方が沢山来られていたので見ていたのですが、AB コーナーをしっかり見てメモをとっていらっしゃるのに対し、C コーナー入った途端、そのまま上って行かれることが多いです。そのなかで小学生が唯一、集まっているのが、核弾頭の数のところでした。そこには、小学生が「なんだろう」というように足を止めて文章を読んでいました。ですので、小学生としては、おそらくそういった物といいますか、見せ方といいますか、そういったものがあれば、足を止めてくれるのではないかと感想として思ったところでしたので、是非、小学生がそこを通るだけの道じゃなくて、何かしら足を止めていただくような展示ができないかなと考えております。

委員

委員の意見を踏まえてなんですが、私もこの間の委員の皆さんのお話をお伺いしながら、やっぱり城山はメッセンジャーとしての意見を聞くというのはとても大事であると思いました。

一方で、どうして観光客や修学旅行生たちが C コーナー、D コーナーを通りすぎてしまうのか、ということに対するファクトは、今実際に見てこう思ったというのもあるとは思うのですが、例えば、「資料集みたいでつまんなそうだった」みたいなファクトは取れたらいいと思うので、やはりそういう意味では、旅行客の意見も大事じゃないかなと感じた次第です。

受け取る側の人たちが何を感じたのかを意見としては貰いたいし、私も日常的に修学旅行生や海外からのお客さんを案内したりしますけども、その時によく言われるのは、「年表だけが書いていて帰ってから調べられそうだなと思った」だとか「見出しが大きくないのでどのように見ていけば正解なのかわからなかった」といった感想は実際に頂いたことはあります。

そういう意見が積み上げられていくというのは、必ずしも原爆資料館に限らず、長崎全体に良いファクトになるのではないかと思います。大変だとは思うのですが、そのようなアンケートがあると嬉しいなと思いました。

委員

関連で、先ほどから城山の小学生がピースナビをして、先ほどから CD コーナーの話がございました。小学生が CD コーナーを見ないということでございますので、そうであるならば小学生がピースナビをして何を見せようとしているのか、何を分かってもらおうとしているのか、という部分を見ていくと城山の子どもたちの意見を聞くというのは、非常に大事

だなと感じましたので、それを踏まえて事務局にはご検討いただければと思います。

事務局

今回のワークショップの目的なんですけれども、今から基本設計の策定に向けて展示更新の内容を具体的に検討していくということで、利用者の視点で意見を求めたいというのがまず一点ございます。その時に、繰り返しになりますけども入館者の状況を見た時に子どもたちの利用が多いのに、そこの意見がもらえていない。そうなった時に、アンケートは一部中学生からは意見をもらえていますが、内容的に十分ではないと思っています。小学生については、小学生にもわかりやすい展示、AB コーナーはよくご覧になられますけど、C コーナーは素通りされるという状況にあるという話だったので、そういった意味では小学生にもわかりやすいという展示を目指せば、中学生にとってもわかりやすくなるのではないかと思っておりますので、今回のワークショップの対象としては全てを網羅してやれれば一番いいんでしょうけども限りある時間のなかで基本設計を策定していきますので、小学生にスポットを当ててわかりやすい展示を目指していきたいということと、修学旅行生については小学生・中学生・高校生が多くいらっしゃいますので、今、ご意見いただいたようにアンケートは検討をさせていただきたいと思います。

会長

沢山の意見をいただいて、ワークショップをやって、従来意見を聞かなかった層から色々な意見を取り入れるために小学生であるとか留学生であるとか沢山の意見をいただいてですね。個人的には、どういう意見を受けてそれをどう活かすのかという観点ですね。なんとなくできそうな気がしてきたので、いい議論だったかなと思いました。

ただ、細かいことといえば、大学に長くいて、県外から入学してきた人たちと県内で平和教育を受けて入学してきた人たちで明確に意識が違うんですね。だからその人だけを集めて展示を見るのかなと最初は思ったんですけど。

中村先生の授業も人気で留学生たちが沢山集まってくるのもよくわかるんですけど、長崎大学の留学生って白人は少ないですよね。ヨーロッパやアメリカがどのくらいいるのかな。核保有国の若者たちが国に帰った時に「核はいけない」と思ってもらえる展示があると思うので、いわゆる長崎大学の留学生と資料館に来ている富裕層の外国人とは、ちょっとずれるかなという気はします。その辺も気にしながらやっていっていただければと思います。

委員

先ほど、小学 3 年生からのピースナビについて話がありましたが、子どもへの影響はよく考えたほうがいいと思いました。小児診療の専門家を入れて影響面を検討したほうがいいと思います。今回は AB コーナーではなくで、CD コーナーなので違うかもしれませんが。

委員

留学生を含む大学生ってありますね。これも公募ではなくて、長崎大学の留学生が受講する授業ということで限られてしまっているのですが、長崎県下に複数大学がありますが、留学生は他の大学にもいらっしゃるのでそういう方々にも門戸を広げていただくといいので

はないかという意見です。

委員

去年、ワークショップをすることになったという発表があって、えっと思ったんですけど、基本計画が出来上がった後にワークショップを行うので、これをどういう風に基本計画に反映させるのかというのが、ワークショップからの意見を集約して長崎市が審議会に報告する流れとなっているのですが、基本計画に意見を反映させるような流れになっていないことが非常に気になります。

基本設計という言葉が常にでてきて、ワークショップの意見を集約して色々やっていくのは、最終的に基本設計に反映させるという考え方ですか。もう基本計画には戻らないのでしょうか。

事務局

基本計画は完成しておりまして、それに基づいて利用者の目線を加えたうえで基本設計を今年度策定していきたいと考えております。

委員

基本計画に少し修正を入れる可能性を秘めているのではないかと思ったのですが。

事務局

基本計画の変更は今後ございません。

委員

僕が言っているのは、それで決めてしまっていることに、どうなんですかと聞いているのですが。

事務局

基本計画については昨年度一年間かけて委員の皆様、それから審議会の中に小委員会を設置しまして専門的な視点から十分ご検討いただいて基本計画を策定してまいりました。

今回、ワークショップについては基本計画の大きな方向性を踏まえたうえでその内容に基づいてワークショップを実施してそこで出た意見を具体的な設計の段階で活かしていく考え方でございます。昨年一年間かけて審議会の委員の皆さまには貴重なご意見をいただきましたので、基本計画についてはこの大方針のもとで進めていきたいと考えております。

委員

大体わかりました。小学生を中心としたワークショップから新しい原爆資料館の展示についてさらに重要な意見が出てくることを予測しているのですが、基本計画に戻って議論をしないということでちょっと心配です。

委員

今おっしゃられたとおりだと思います。今回ワークショップで子どもたちの意見を聞くわけですから、本当にあっているのか、せめて検証だけでもすべきだと思います。検証してそれがあっていたらそれはそれでいいわけですから。検証をしないというのは、おかしいと思いますので、意見だけは言わせていただきました。

会長

ワークショップの話が出てきた時に、僕のほうから、審議会を無視してですか、と言ったんです。議論をしてきて積み上げた後から、湧き出た意見を入れるというのは違うのではないかと言ったのですが、確かに子どもや外国人の視点が欠落していたというのはそのとおりなので、基本的には審議会で議論したうえで基本設計に活かしていくよりも、ご意見があったように、これについては基本計画が不十分だったのではないかという議論になるのであれば議論していいと思います。それで心配になるというご意見があるのではないかと思います。

副会長

別の視点から一言だけ申し上げたいことがございます。子どもたちから意見を聞くというのは、博物館学的に言いますと、設計前の事前評価に相当します。そして事前評価をして、その意見を踏まえて基本設計をより良いものにしていくためのワンステップで、そして実際に制作・完成してオープンしたらもう一度事後評価をします。

ですから事前評価と事後評価が一貫して、ここでいうとお名前を出して恐縮ですが、コーディネーターの中村先生がそのはじめと最後まで見届ける、そしてその事後評価でまた改善点があったら、同じようなことを何年後からまたやっていくという積み重ねが必要だと思います。

それからもう一つの問題点は、ワークショップで出された意見をどのように次の設計に反映していくかというフィードバックシステムがないとうまく機能しません。したがって、そのフィードバックシステムを審議会でやるのか、或いはもう少し詰めてからやるのかというプロセスが設計の範囲に入っていないとなかなかうまくいきません。

それから、一回だけのワークショップをやるのではなく、例えば小学校5年生の子どもたちが更に成長して、数年後開館した後に事後評価をやってもらって、その結果を資料館の財産にして育てていくことをしませんと、いつも一回きりということが日本の博物館は多いのですけれども、「長崎モデル」というのをつくって素晴らしい博物館にしていくような全体のシステム設計も必要ではないかと思いました。平和教育のあり方とか全小学校中学校でワークショップをやるという理想は、もちろん新しいとは思いますけども、サンプリング調査という視点であれば、次の設計に進めるためで、この範囲で十分だと思いますので、このまま進めていただきたいと思います。その際の周知方法として、事前評価、事後評価をつくる、ワークショップ後のフィードバックシステムをつくる、市の平和教育全体のシステムをつくるという三点に絞られるのではないかと思います。

会長

個人的な感想含めてですけども、県外に被爆者や交流証言者が講話に行きますけども、その人たちが行った学校が長崎の資料館に来てまた再会するという話を最近よく聞きます。いわゆる事前学習があって来館して事後学習があって完成という流れがあるんでしょうけど、最近特に増えているように思いますので、こういう使い方をして資料館のありようが完

成すればと思います。今回の議論のなかにもそういうのが今後の展開として出されていけばいいかなと思いました。他にご意見ありませんか。無いようでしたら、本日予定している議事は全て終了しましたので事務局にお返しします。

事務局

審議会終了といたします。